

【エクアドル内政・外交：2014年9月】

1. 内政

(1) 通信・情報社会大臣および文化大臣の交代

コレア大統領は、15日付大統領令第448号により新たに文化大臣および通信大臣を任命したところ、辞任した閣僚および新閣僚の氏名は以下の通り。

ア 辞任した閣僚

(ア) ハイメ・ゲレーロ通信・情報社会大臣

(イ) フランシスコ・ベラスコ文化大臣

イ 新閣僚

(ア) アウグスト・エスピントバル通信・情報社会大臣

(イ) フランシスコ・ボルハ・セバージョス文化大臣

(2) 治安調整大臣および国防大臣の交代

コレア大統領は、26日付大統領令第460号により新たに治安調整大臣および国防大臣を任命したところ、辞任した閣僚および新閣僚の氏名は以下の通り。

ア 辞任した閣僚

(ア) フェルナンド・コルデロ治安調整大臣

(イ) マリア・エスピノサ国防大臣

イ 新閣僚

(ア) セサル・ナバス治安調整大臣(前ECU911総本部長)

(イ) フェルナンド・コルデロ国防大臣(前治安調整大臣, 元国会議長)

2. 外交

(1) シリア領内の過激派「イスラム国」への空爆

ア エクアドル外務省は、23日、米国によるシリア領内の過激派「イスラム国」への空爆に反対する旨のプレスリリースを発表した。概要は以下のとおり。

イ エクアドル政府は、23日、米国およびその他の国により行われたシリア領内の過激派「イスラム国」への空爆に反対する。

ウ 空爆は、国連総会のあずかり知らぬところで、かつ安全保障理事会決議を経ることなく実施されたものであり、国際法に違反するものである。

エ また、これまで増大する「イスラム国」の脅威に対し国際社会の協力を訴えてきたシリア政府の同意なく行われたものであり、シリアの主権を侵害し同国の領域的統合

を脅かすものである。

オ すべての軍事行動は国際社会のしかるべき承認を得なければならない。我々は、一方的な措置、しかも正統性のないそれは、領域内をさらに不安定にし、民間人に嘆かわしい結果をもたらす傾向があることを最近の歴史から学んでいる。

カ 最後にエクアドルは、国連、国際人権法および国際人道法を通じた国際法のメカニズムによる解決を模索するよう国際社会に呼びかける。